

議 事 録

会議名	令和6年度第2回寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議		
開催日時	令和6年9月27日（金）13：30～15：00		
開催場所	寒川町健康管理センター2階会議室		
出席者名 欠席者名 及び 傍聴者数	出席者：三澤委員、江藤委員、右城委員、古谷委員、稲葉委員、 佐藤委員、山口委員、柴田委員（8名） 浅野生活支援コーディネーター 欠席者：小西委員（1名） 事務局：三橋高齢介護課長、秋庭副主幹、北野主任主事 傍聴者：－（0名）		
議 題	1. 生活支援コーディネーター令和6年度事業計画について 2. 生活支援コーディネーター活動報告（令和6年7月～8月） 3. 生活支援・介護予防サービスについて		
決定事項	・議事録承認委員の決定方法は、委員名簿の記載順とする。 ・各委員からの意見を踏まえ、今後の取り組み事項を整理し、 次回の会議で示す。		
公開又は非 公開の別	公開	非公開の場合その 理由（一部非公開 の場合を含む）	
議事の経過	1. あいさつ 2. 議事録承認委員について 古谷委員、稲葉委員 3. 議事 【議題1】 事務局：前回会議からの修正。意見なければ確定とする。 三澤委員長：このことについて、何か意見や質問などはあるか。 （質疑なし） 【議題2】 浅野生活支援コーディネーター（以下「浅野SC」と表記）：（資料2を用いて、 活動について報告） 三澤委員長：このことについて、何か意見や質問などはあるか。 右城委員：ニコニコクラブのメンバーは何人ぐらいか。 浅野SC：30名程度にまで増えてきたと伺っている。		

右城委員：高齢者が大分増えており、1自治会1老人会をという話を自治連の役員会で話してきた。65歳以上の方がいない自治会はないので、65歳以上の方をどのようにケアするかといえば、自治会に1つ老人会があれば、老人会が中心になって動けるのではないかと。

三澤委員長：寒川町では、あの方がどうだとか、顔が見えているのが良い。高齢化率が上がっているなかで、非常に動きやすい地域の特性と思う。

右城委員：新橋の県営住宅の建て替えもあるが、そちらはどうなっているか。

浅野SC：把握している情報では、新橋の建て替えは6棟を3棟ずつに分けて行うとのことで、最初の建て替えの人たちはすでに新橋から転居した。新橋で月に1回開催されていた集いの場があったが、会の中心で動いていた方も建て替えに伴い岡田の県住に引っ越した。新橋での集いの場の開催のときには戻ってきて、活動を継続していると伺っている。その他、今回の新橋の県住の建て替えで話題として多かったのは、お住まいだった方に高齢の方や障がいのある方もいたので、引っ越しをきっかけに体調を崩して入院した方や、具合を悪くするなど、大変な思いをされたとのことで、自治会にも引っ越しの支援の希望、手伝ってほしい、1人じゃできないというお声も多かったとのこと。

古谷委員：シニアのボランティアが多数活躍のなか、宿題応援きんじろうルームとあるが時間帯は。

浅野SC：今年は6日間設定をして、時間は9時半から11時半まで、その後、昼過ぎぐらいまで部屋を開けて、昼食を済ませてから帰る子どももいたといったところ。

古谷委員：夏休み期間で11時半に終わると、一番暑いさなかに帰る。もう少し時間が延ばせられたらシニアの方のやりがいももう少し増えるかと思う。

三澤委員長：子ども食堂のボランティアスタッフもシニア世代。若い方はなかなか来てもらえない。ボランティアはシニアに頼っている。

【議題3】

浅野SC：(資料3を用いて、生活支援・介護予防サービスについて説明)

浅野SC：シニア世代向けのワンストップ情報紙を作っていきたいという話で、前回の資料に追記をしたのが今後のスケジュール。コロナ禍を経て再開し始めた活動の最新情報の確認と整理をし、この会議の場で報告を行いながら仕上がりをイメージしたものを作っていき、この会議での最終の確認を経て最新情報を盛り込んだ形で、来年3月発行としている。

次に、身寄りのない高齢者の安心サポートについて、生活支援・介護予防を中心に置くテーマの中で、生活支援の部分の安心感、日々の生活がしっかりと行われていくことが、ひいては介護予防にもつながっていくと考えていけたらと思っています。

基本的には日常生活支援、介護予防の視点で備える、関わるということで、どのようなことを日頃から情報交換ができたり、情報発信ができたり、それによ

って、その人自身が行く行くの備えという視点で備えていくことができるかというような形でつくっていったらと、案を出させていただいた。

1人で暮らしている高齢の方などが安心と思えるような仕組みをつくっていくことが必要と考えており、改めて、委員方が所属される団体それぞれに団体としての活動やノウハウをお持ちでいるので、そういったものを集約する形での仕組みづくりというのができないかと思っている。

最後に、既に町にある資源のつなぎと連動で、1人暮らしのシニアの方や身寄りのない方が安心と思えるようなことを届けられるように協議をしていきたいと思い、目指す形としてイメージするものをそのようなところに置いてみたい。それをたたき台としてお示しするもの。

他市の社会福祉協議会でも取り組んでいるところが増えてきているとともに、身寄りのない高齢者等が抱える生活上の課題に対応するために今、厚生労働省が中心となってモデル事業の実施を呼びかけていて、実施している自治体で連絡会も開催している。

連絡会では、他市の社会福祉協議会で既に持っている金銭管理や契約のサポートのような事業に、複合的な課題を抱えている人で市民後見人養成だけでは対応が難しい状況も出てきているところでのバックアップ体制や、そういったところをどのようにしていくかという課題、緊急時や不定期に支援を要請するということが、常勤ではない職員では支援が円滑に行かないこともあるといった課題の部分に触れていた。

こういった人へのサポート体制をどのようにつくっていくかというところでは、全国的にも身寄りのない高齢者の支援体制であったり、安心づくりについての話題が増えてきているということで、今日は触れさせていただいた。

こういったものをつくっていくことができるか協議していきたいので、たたき台の提案と情報提供で、今日は幾つか出させていただいたが、この後またご意見を伺いたい。

三澤委員長：このことについて、何か意見や質問などはあるか。

古谷委員：ワンストップ情報紙「きょうようときょういくガイド」という言葉、最近はそれに加えて、ちょきんが大事だと。筋肉を蓄えるほう。

「きょうよう」と「きょういく」が大事だといっても、何のためにというと、筋力を維持して、フレイル予防、健康寿命延伸というところで、その辺が分かりやすいのかなと思う。

それと、ご安心にと赤く囲まれているところが、包囲網とあり、負のイメージ。このまま使うのであれば、もう少し柔らかくしたらいいかなというのが1点。左下の情報共有シート、個人情報についてどうクリアするのか。また、右下にインフォーマルとあるが、あまり横文字は使わないほうがよい。

最後にもう1点。資料に新聞の複写があるが、これは著作権に違反しないか。

事務局：そちらは会議体の資料に含めておらず、時事の紹介のために用いたもの。会議後に回収させていただく。

三澤委員長：他にはいかがか。

右城委員：今、民生委員のなり手がいないと思う。民生委員にこういうことをお願いしたいんだというのであれば、そういうことが反映できるようなバックアップ体制を取っていないと、ただ項目を並べているだけで終わってしまう気がする。

山口委員：個人差はあるが、民生委員は地域のお年寄りと関わりがあるので、情報は比較的入りやすい、見つけやすい立場にはある。

浅野SC：民生委員の皆さんが気づいたことを社協にも届けていただくことは実際に多くある。今回、身寄りのない高齢者の安心のための体制ができましたとなったときに、皆さんに情報として共有できる場があれば共有していただいて、対象者の近くの地域にいる民生委員の方が情報としてそういうものを、つなぐ役割という中で、今回つくろうとしているものも届いていたり、一緒に見守りの1つにさせていただいたらいいかなと、そのようなイメージで、今回入れている。

三澤委員長：これがいいと思うかは、受け取るほうはどう感じるか。それ以上は難しい。

柴田委員：対象者が支えられるだけではきつとないだろうと。高齢者と書いてあって、例えば60歳そこそこ、もしくは60歳になっていない現役でも1人暮らしで入院して困るとか、そういうことを考えると、その人は社会参加をしているので、一方では活動しているけど、この部分は支援を受けたいという人がいるとしたら、みんながあなたを支えるというよりは、お互いさまに近いような。これだと力がない人を皆が支えますと見える。というよりは、できるところはやっていただき、その人の持っていないところを支えるみたいな方がいいと思う。

稲葉委員：「ご安心に」というのはいろいろな方向からの課題が起こるのを、これだけのものがあるから、支えるから安心してくださいねということをもとめたものかと思う。そうではなくて、今後こういうことが起こり得るよということを、どう自分が考えて、そうならないようにするかが大事なのであって、私は何もしなくていいんだね、支えてくれるんだねということではないんだろうなというのは、柴田委員が言われたところ。そうならないために事前に考えましようという啓発をしなければいけないのではないかと思った。

浅野SC：公園で体操を始めて2年ほど経つ。そうした体操の場などに自分で出かけていっている人は、行った先々で何らかの情報を得たり、自分1人でずっと家にいるという方よりは、何か持ってこれる機会が多いかと思う。

公園の体操に来てもらう人を増やしていくということも、実はこういった行く行くに備えていくための1つの取組として、情報をお渡ししたり、チラシを配ったりということは体操の場でもやっていたりするので、きっかけがどこにあるかは分からないが、身寄りがない方や1人である方にも、こういうことだけは備えとかなきゃいけないかなという情報の情報を、少しでも持っておき、自分なりに活動もして、万が一のときに備えてというのができればいい。その際

	<p>に、こういうものが寒川町に形としてできているから、何となく安心なんだな、ということをして1人でも多くの人にキャッチしてもらえるように、何とか仕組みとして動き出せるところまで持っていったらと思う。</p> <p>三澤委員長：社会支援としてこういうものもあるというのをお知らせしていくことも大事。それを取るか、取らないかは、個人の判断だと思う。</p> <p>山口委員：町や社会福祉協議会の広報などを見ると、本当にいろいろある。しかし、誰がどこまで参加してくださっているのかなど。</p> <p>三澤委員長：広報などは比較的若い人はネット配信を見ているのか。ネット配信がない頃に広報を見ている人は20%以下と聞いたことがある。いくら配信しても見ない人は見ないという状況をこれからどうフォローしていくかというところか。困ったらそのときには民生委員や地域包括支援センターなどに来るといふ状況なんじゃないかと思う。</p> <p>右城委員：老人クラブに入ろうと書いてほしい。ネーミングもあると思う。例えば老人会という感じは抵抗感が強い。でも、本当に老人クラブなどに入って、年数回、旅行があったりいろいろあって、そういったところへ参加すれば、自分で何もしなくても一緒に楽しめる。それを個人でやろうとするとなかなか大変なので、それが1つの方法だろうと思う。とりあえず身体も元気で高齢になって、フレイルにならないようにしていくためには、そういう人と人との交流する場に積極的に参加できるような体制がないといけない。</p> <p>浅野SC：既に町の中にこのように活動団体や資源があつてというところの確認と併せて、例えば医療機関の場合、入院のときの保証人であったりというのはどうしても話題として出続けてしまう。急にそうなったときに、書ける名前、人がいない。例として、他地区社協の取組で、急な入院や入所が必要になったときの手続をしてくれるものがあり、身寄りのない高齢者がそういったところで大変困り事を抱えているというところから事業を形にしている。このような資源が地域に1つ増えることで、日頃の皆さんの活動と併せて、もしもというときに、仮に身寄りのない人であったとしても、日頃の活動も元気にやっけて、でも、いざというときにはそんな地域の窓口が助けてくれるというような形で、何となく支える仕組みが1つ増えていくようなイメージ。また既に走っているところの情報も聞いていくなどしていきたい。</p> <p>(閉会)</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料1 生活支援コーディネーター令和6年度事業計画</p> <p>資料2 生活支援コーディネーター活動報告</p> <p>資料3 生活支援・介護予防サービスについて</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>古谷 雅洋、稲葉 康宏（令和6年12月18日確定）</p>